

授業概要

愛は文学のみならず、芸術・社会学・哲学など幅広い学問領域において、主要テーマのひとつと見なされている。文学的テーマとしての愛は古代ギリシャに起源を持ち、中世の〈洗練された愛〉を經由して、20世紀のシュルレアリスムにまで脈々と受け継がれてきた。本授業では、ヨーロッパ諸国の文学作品において、歴史や社会の観点から、愛がいかなる形で表現されてきたのかについて講義する。愛の概念を厳密に定義するため、まずは愛を理論化した著作を概観し、そのうえでヨーロッパ諸国の文学作品を断片で読み込んでいく。

授業計画

第 1 回	愛の理論化
第 2 回	愛の前史① オウィディウス
第 3 回	愛の前史② カトゥルス
第 4 回	放蕩と愛① ティルソ・デ・モリーナ
第 5 回	放蕩と愛② モリエール
第 6 回	〈洗練された愛〉① アル・アンダルス詩
第 7 回	〈洗練された愛〉② プロヴァンス詩
第 8 回	自殺と愛① ゲーテ
第 9 回	自殺と愛② セルバンテス
第 10 回	魔法と愛① 『トリスタンとイゾー』
第 11 回	魔法と愛② 『ラ・セレスティーナ』
第 12 回	道徳と愛① 『よき愛の書』
第 13 回	道徳と愛② 『ドルジェル伯の舞踏会』
第 14 回	同性愛① ジャン・コクトー
第 15 回	同性愛② サッフォー
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・愛を扱う文学作品には、社会的、宗教的、歴史的制度が反映されていることが理解できる。
- ・作中人物の心理的考察を通して、文学に特有の愛にまつわる表現形態を把握することができる。
- ・直感や感情によってではなく、論理的思考にもとづいて文学作品を解釈できる。

履修上の注意

- ・理解できない用語や概念があっても放置せず、その場で質問をして解決することが望ましい。
- ・受講生の関心と理解度により、授業で扱うテーマは入れ替わる可能性がある。
- ・外国語の知識は必要ない。

予習・復習

愛にまつわるさまざまな表現形態を把握するため、配布する文学作品の断片を復習として読み直すよう心がけること。

評価方法

学期末試験 80%、授業内コメント 10%、授業態度 10%

テキスト

授業ごとにプリントを配布する。